

今日のトピック 最近の指標から見るブラジル経済(2014年8月) 景気低迷から脱するカギは公共投資と輸出

ポイント1 生産の低迷と消費の減速が鮮明に

W杯開催中は景気が下振れ

- 6月の鉱工業生産指数は前年同月比▲6.9%と、3月から4カ月連続のマイナスになりました。また、マイナス幅は前月(同▲3.4%、改定値)から拡大しました。
- 6月の小売売上高(物価の影響を除いた実質ベース)は前年同月比+0.8%となり、前月(同+4.7%、改定値)から大きく低下しました。
- サッカーW杯の自国開催(6月12日~7月13日)は、工場や商店の臨時休業などを通じて、景気の減速度合いを一段と強める要因になりました。

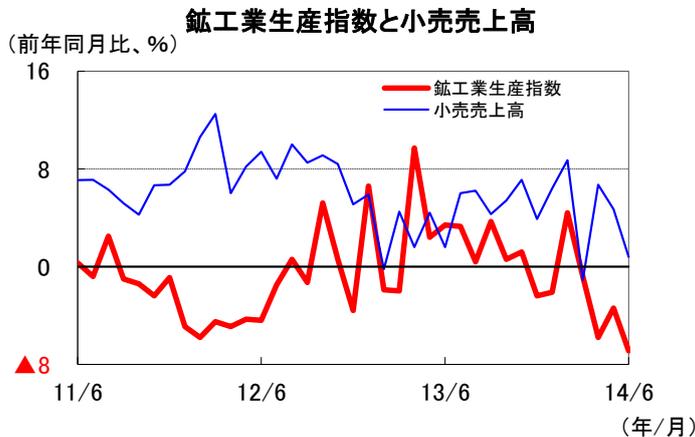
ポイント2 物価上昇率は依然高水準

電力料金引き上げなどが押し上げ

- 7月の消費者物価指数は前年同月比+6.50%と、前月(同+6.52%)から小幅に低下しましたが、ブラジル中央銀行(以下、中銀)の目標レンジ(年+2.5%~+6.5%)上限近辺の水準が続きました。
- サッカーW杯の終了により、ホテル料金や航空運賃などが下落しました。一方、電力料金が引き上げられたことなどから、全体の低下は小幅にとどまりました。

今後の展開 公共投資の拡大や、堅調な輸出などが景気の下支え要因に

- ルセフ大統領は低迷の続く景気に配慮し、公共投資を拡大しています。しかし、政権交代による経済政策の刷新期待が強まっており、10月の大統領選挙では再選に向けて苦戦が予想されます。
- 米国や中国の底堅い景気を背景に、輸出は持ち直しが見込まれます。輸出は、公共投資の拡大とともに景気の下支え材料として要因されます。
- 中銀は7月16日、政策金利を11%で据え置きました。賃金上昇や公共料金引き上げなどにより、物価上昇率の低下には時間がかかると見ていることなどが背景です。中銀は景気下振れを意識しつつも、物価上昇率の高止まりを強く警戒していると見られ、次回会合(9月2日~3日)でも、高水準の政策金利を維持する見込みです。



(注1) 鉱工業生産指数と小売売上高は2011年6月~2014年6月。消費者物価指数は2011年6月~2014年7月。
(注2) 消費者物価指数の市場予想は、ブラジル中央銀行が8月18日に発表した調査結果。
(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも
チェック!

2014年07月17日【デイリー No.1,915】ブラジルの金融政策(7月)

2014年07月14日【キーワード No.1,370】ワールドカップ後のブラジルの経済・政治は?(ブラジル)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。